

伊勢市の環境の概況

1. 基礎的条件

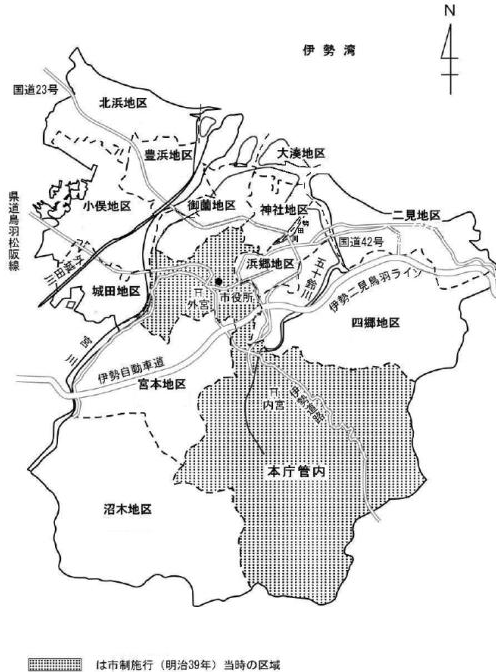
【位置・地勢・沿革など】

○本市は、伊勢平野の南東部に位置し、鳥羽・志摩の2市及び多気・度合の2郡に隣接しており、東西は16.99km、南北は20.22kmにわたり、面積は208.53km²に及んでいる。

○伊勢志摩国立公園の玄関口にあたり、北は伊勢湾に面し、中央には県内最大の河川である宮川が流れるほか、五十鈴川、勢田川が流れ、東から南にかけて朝熊ヶ岳、神路山、前山、鷲嶺が連なり、西には大仏山丘陵が広がるなど、神宮宮域を中心とした自然景観に恵まれている。

○本市の大部分は、古来、伊勢神宮の神領であり、神宮の鳥居前町として発展し、市場町、港町、都津集落等の機能とともに発展してきた。

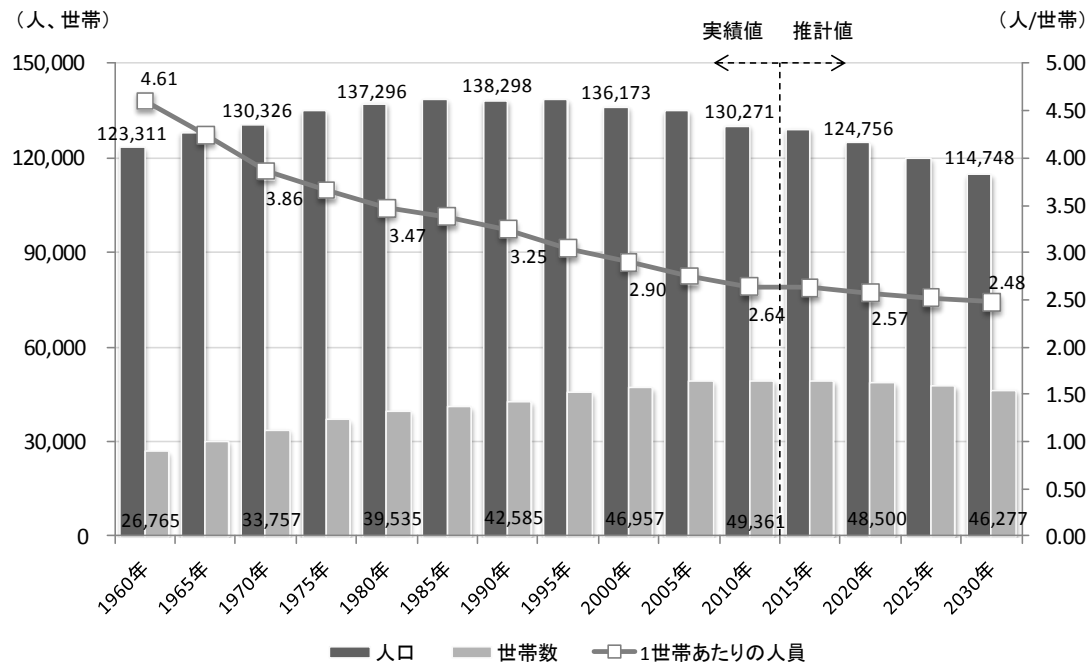
○近世になると、お伊勢参り、おかげ参り、抜け参り等の庶民の参宮が本格化し、参宮街道最後の宿場町、神宮の鳥居前町として、多くの参拝客でにぎわった。



【人口及び世帯数】

○本市の人口は、1995年以降減少傾向にあり、2010年では130,271人となっている。一方で、世帯数は増加傾向にあり、1世帯当たりの人員は減少を続けている。

○今後は、人口は引き続き減少傾向が予想されており、世帯数についても増加から横ばいになることが予想されている。なお、2030年には、65歳以上の高齢者、75歳以上の後期高齢者の人口増加が予想されており、高齢者率（老年人口率）は32.7%となり、約3人に1人が高齢者となることが予想されている。



■伊勢市の人口・世帯数の推移と推計
出典：市勢統計要覧（2013年度版）、将来の伊勢市の姿（平成23年3月）

2. 自然環境

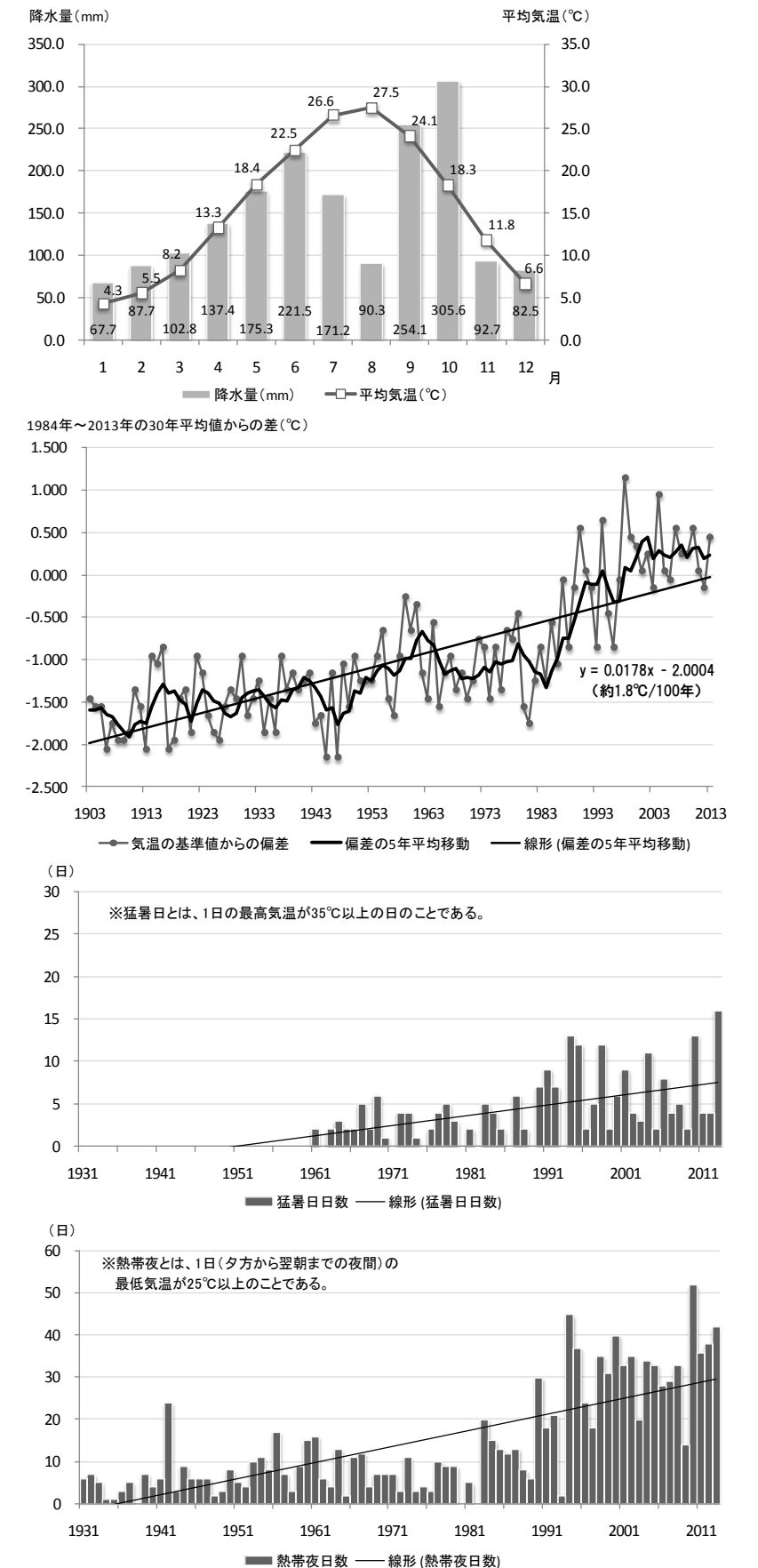
【気象条件】

○本市の気候は、伊勢湾に面した地域では「標準的な東海型の気候区で、年平均気温14～15℃、年降水量1,800mm」の区域となっており、また山地よりの地域では「東海型と南海型との漸移的な気候区で、降水量が多くなり、年2,000mmを超える」の区域となっている。

○過去5年間の伊勢市の月別平均気温は、最低が4.3℃（1月）、最高が27.5℃（8月）である。また、月別平均降水量は、9月に254.1mm、10月に305.6mmと多くなっている。

○県内で最も古くからデータが収集・整理されている津市（津地方気象台）における年平均気温の上昇率は、100年あたり約1.8℃である。

○同様に、津市（津地方気象台）における猛暑日及び熱帯夜日数は増加傾向にある。



■伊勢市の気象条件
(上から) 月別降水量と平均気温
年平均気温偏差の推移
年間あたり猛暑日数の推移
年間あたり熱帯夜日数の推移
出典：気象庁 気象統計情報

【地形・地質、水系】

- 本市の地形は、隣接する度会町と南伊勢町の境界にそびえる神岳（492m）より八祢宜山（426m）を経て山伏峠（498m）に至る連山を背景に、伊勢湾に向かってゆるい傾斜をなしている。また、市街地を挟んで東に五十鈴川、西に宮川が南北に流れて伊勢湾に注いでいる。
- 市街地の南側は朝熊山（朝熊ヶ岳 555m）、島路山（405m）、鷲嶺（袴腰山 548m）、神岳などの8つの山が連なり、市域の約半分は森林で占められており、神宮の山々とともに山の緑を誇っている。
- 本市を流下する河川は、東の五十鈴川、西の宮川、外城田川、中央の勢田川に代表される。
- 一級河川の宮川は、（日出ヶ岳 1,695m）に源を発し、大杉溪谷を刻み、諸支川を合わせて伊勢平野に出て、河口付近で大湊川を分派し伊勢湾に達する、県下最大の河川である。
- 池沼については、笹原池、落合池など、主として灌漑用に造られた大小のため池が点在している。
- 海域について、北浜地区海岸（北浜西地先・北浜東地先）・東豊浜地区海岸・江地区海岸・神前地区海岸・松下地区海岸が海岸保全区域になっている。



■伊勢市内の一級河川・二級河川の状況
出典：伊勢市生活排水対策推進計画（平成21年3月）を基に作成

【動植物・生態系】

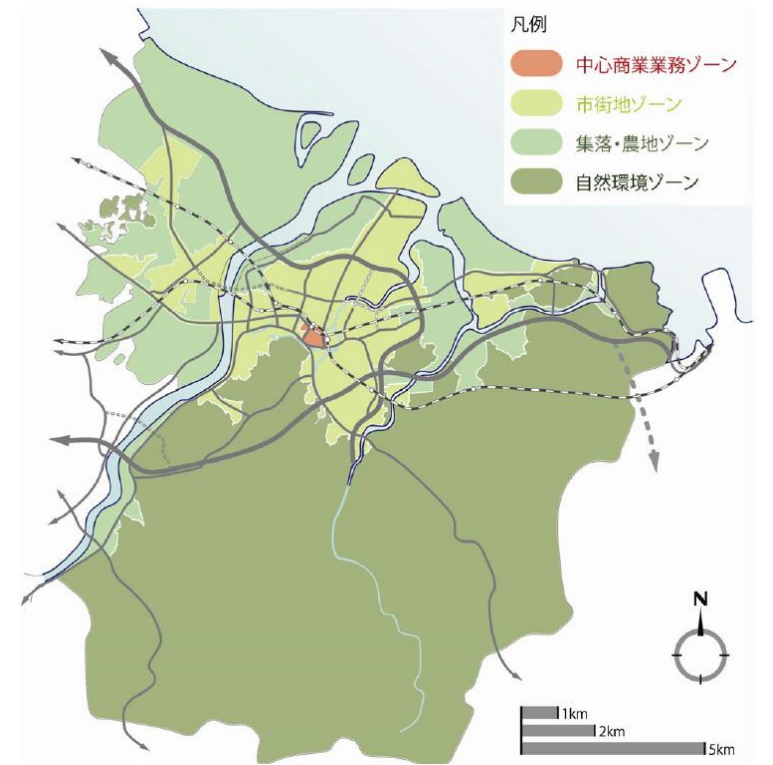
- 三重県では、三重県のレッドリストに記載されている絶滅のおそれのある動植物の主な生息・生育地を「希少野生動植物種主要生息生育地（ホットスポットみえ）」として示しており、伊勢市においては、外城田川・宮川・五十鈴川河口干潟一帯、松下社とロマンの森一帯、横輪川上流域の3地域が示されている。
- 市全域における動植物の生息・生育状況に関する調査はされておらず、こうした情報が不足している。

外城田川・宮川・五十鈴川河口干潟一帯	アカウミガメの産卵地、コアジサシの繁殖地となっている。また、クリイロコミミガイ、ヒロクチカノコ、ウミナナ科などの貝類やカニ類等の干潟生物が豊富にみられる。
松下社とロマンの森一帯	植物ではミズトラノオ、シバナ、ミズネコノオ等の水生植物34種、塩湿地にはシバナ群落がみられる。動物では、貝類はマルタニシ、マツカサガイ等11種、甲殻類は18種、魚類はメダカやタナゴ類等13種、両生類はダルマガエル等9種、爬虫類は4種、鳥類はミサゴ、オオタカ、チュウサギ等51種、哺乳類は7種である。なお、社叢はスタジイ、イヌマキ等の高木から成り、林内にはタイミンタチバナ、ホソバカナワラビ等が生育している。
横輪川上流域	植物は201種、鳥類は46種が記録されクマタカ、オオタカ、サシバ等のタカ類が生息する。鷲嶺水穴・覆盆子洞にはテングコウモリや固有のシュウレイホラヒメグモ、およびイワタチビメクラゴミムシ、ホラアナゴマオカチグサ等が生息する。また、河川ではスナヤツメ、アジメドジョウ、アカザ等の希少種を含む15種が確認されている。水生昆虫は、カゲロウ目20種、トンボ目14種、カワゲラ目12種等、計67種が記録されている。

■伊勢市内の絶滅の恐れのある動植物の主な生息・生育地
出典：希少野生動植物種主要生息地（ホットスポットみえ）

【自然景観】

- 本市は、神宮林をはじめとした緑深い山々、清流宮川、五十鈴川をはじめとした水脈、穏やかな伊勢湾など豊かな自然風土に恵まれている。また、市域の南東部に山林が広がり、河川流域に形成される市街地を経て北部の田園地帯へと展開する都市構造を持っている。
- 伊勢市都市マスタープラン及び伊勢市景観計画では、土地利用ゾーン別の自然景観の特性として以下のように整理されている。
- 集落・農地ゾーンは、宮川左岸に一体となって広がっているほか、御園地域、二見地域の北西部や四郷地域、南部の山林の山間などにある程度まとまりがみられる。米づくりを主体とするほか、施設園芸、畜産などが営まれ、それぞれの農業の特色を活かした景観が形成されている。また、伊勢湾沿岸部では漁業が営まれ、有滝や今一色などでは農漁村集落の面影を残している。一方で、後継者不足等により、無秩序な市街化が進んでいる地域もみられる。
- 自然環境ゾーンとなっている市域の南東部に広がる山林は、市の面積の約50%を占めており、神宮林がその半分を占めている。昭和21年、自然公園法による伊勢志摩国立公園に指定され、神宮宮域を中心に自然環境の保全が行われている。市域の南東部に広がる朝熊山麓や鷲嶺から続く山並みは、豊かな自然景観を形成しており、市街地の背景として、伊勢の景観の基盤となっている。



■伊勢市の土地利用別ゾーニング
出典：伊勢市景観計画（平成25年1月）



■集落・農地ゾーンの代表景観
（左：楠部町の田園風景、右：東大淀町の集落の景観）
出典：伊勢市景観計画（平成25年1月）

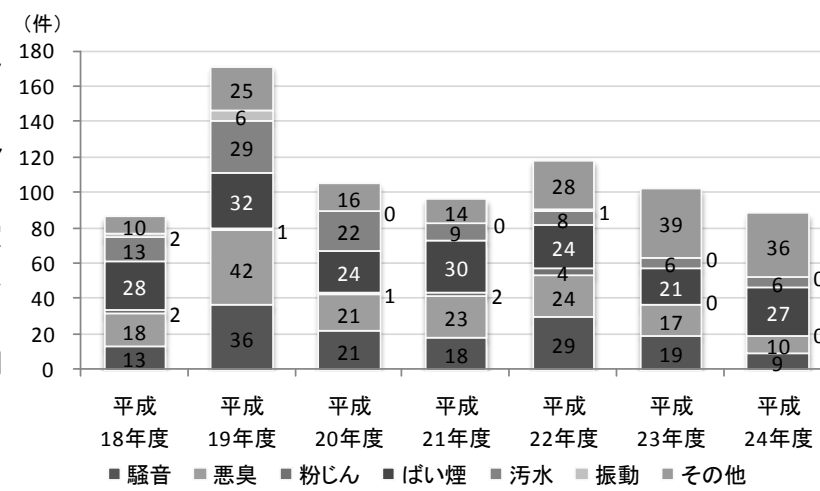


■自然環境ゾーンの代表景観
（左：鹿海町（自然景観との調和）、横輪町（里山の保全との調和））
出典：伊勢市景観計画（平成25年1月）

3. 生活環境

【公害苦情】

- 公害発生種類別苦情件数は、近年では年間100件程度で増減を繰り返しながら推移している。
- 平成19年度には、悪臭42件をはじめとして年間171件と最も多かった。
- その他としては、空き地の草刈りや樹木剪定への要望、犬猫の鳴き声や餌付けによる糞への苦情、空き家の倒壊に関する連絡があり、特に、空き地の草刈りなど、緑地の管理に関する苦情が多くを占めている。



■公害発生種類別苦情件数
出典：市勢統計要覧（2013年度版）

【大気環境】

- 本市では、伊勢市厚生中学校で大気汚染調査が実施されている。
- 二酸化硫黄及び二酸化窒素については、毎年環境基準を満たしているが、光化学オキシダントについては、環境基準を超過した状態が続いている。浮遊粒子状物質については、概ね環境基準を満たしていたが、近年では平成23年度に環境基準を超過している。
- 大気環境に関する苦情として、野焼きによる煙がひどいという苦情が多く寄せられている。

大気汚染調査項目	環境基準	環境基準適合状況						
		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	○	○	○	○	○	○	○
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	○	○	○	○	○	○	○
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。	●	●	●	●	●	●	●
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	○	○	○	○	○	●	○

■伊勢市内の大気汚染調査結果（伊勢市厚生中学校：伊勢市一之木五丁目）
出典：三重の環境ホームページ

【水環境】

- 三重県では、河川・海域等の公共用水域及び地下水の水環境保全のため、国土交通省中部地方整備局等と連携し、水質の継続的な監視を行っている。
- 伊勢市内では、外城田川、宮川、勢田川、五十鈴川、濁川、横輪川等で水質の測定が行われており、BOD（生物化学的酸素要求量）についてみると、平成18年度以降では、勢田川で平成19年度（BOD75%値：7.2mg/l）、平成24年度（6.1mg/l）、外城田川で平成24年度（5.1mg/l）、宮川で平成22年度（1.3mg/l）にそれぞれ環境基準を超過している。
- また、河川の汚れが目立つ水域ワースト5をみても、勢田川が平成19年度（1位）、平成20年度（1位）、平成22年度（4位）、平成23年度（4位）、平成24年度（1位）、平成25年度（2位）にそれぞれ順位づけられている。
- 水環境に関する苦情として、河川等に油が流出しているという苦情が多く寄せられている。

【騒音・振動】

- 三重県では、騒音規制法第18条の規定に基づき、幹線交通を担う道路（高速自動車国道、一般国道、県道及び4車線以上の市町村道等）において、自動車交通騒音を測定し、道路に面する地域での環境基準の適合状況を評価している。伊勢市内では、平成18年度以降、平成19年度、平成21年度、平成23年度に自動車交通騒音測定が各地で実施されており、いずれも環境基準要請限度を満たしている。
- 騒音に関する苦情として、自衛隊や工場の騒音に対する苦情が多く寄せられている。

【悪臭・土壌汚染】

- 悪臭に関する苦情件数は、近年減少傾向にあるものの、側溝から悪臭がするという苦情が多く寄せられている。

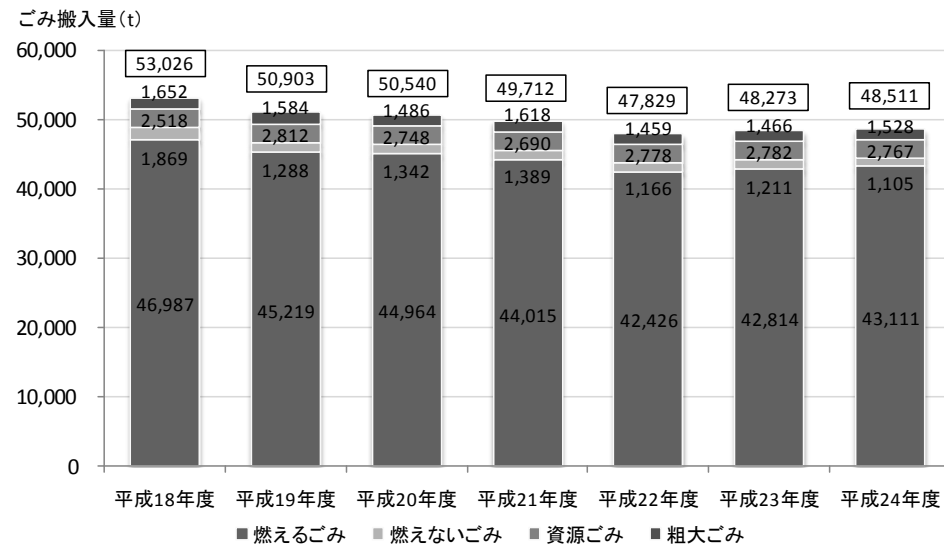
【ダイオキシン類】

- 三重県では、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、大気や水質等におけるダイオキシン類の環境調査が実施されている。
- 平成25年度の調査結果をみると、大気では、厚生中学校において年平均0.0079pg-TEQ/m³が測定されており、県平均0.019pg-TEQ/m³を下回っているほか、環境基準0.6pg-TEQ/m³以下を満たしている。
- 水質では、外城田川で0.56pg-TEQ/l、宮川で0.028pg-TEQ/l、横輪川で0.034pg-TEQ/lが測定されており、いずれも環境基準1pg-TEQ/l以下を満たしている。また、海域では、伊勢湾地先で0.035pg-TEQ/l、伊勢湾で0.025pg-TEQ/lであり、いずれも環境基準1pg-TEQ/l以下を満たしている。
- 地下水や土壌の測定は、伊勢市内では行われていない。

【ごみ処理】

○伊勢広域環境組合の清掃工場には、伊勢市に加え、明和町、玉城町、度会町の1市3町がごみを搬入している。
 ○伊勢市のごみ搬入量は、平成18年度から平成22年度にかけて減少傾向にあったが、平成23年度、平成24年度にはわずかに増加している。

○平成20年における本市の可燃ごみ量は44,594トン/年である。伊勢市ごみ処理基本計画では、平成31年に34,000トン/年という最終目標値を設定しているが、現状維持では43,117トン/年と現状値からわずかな減少しか望めないものの、計画に示されている基本施策を実施することで、最終目標値を達成できると予想されている。資源化率や最終処分量も同様である。

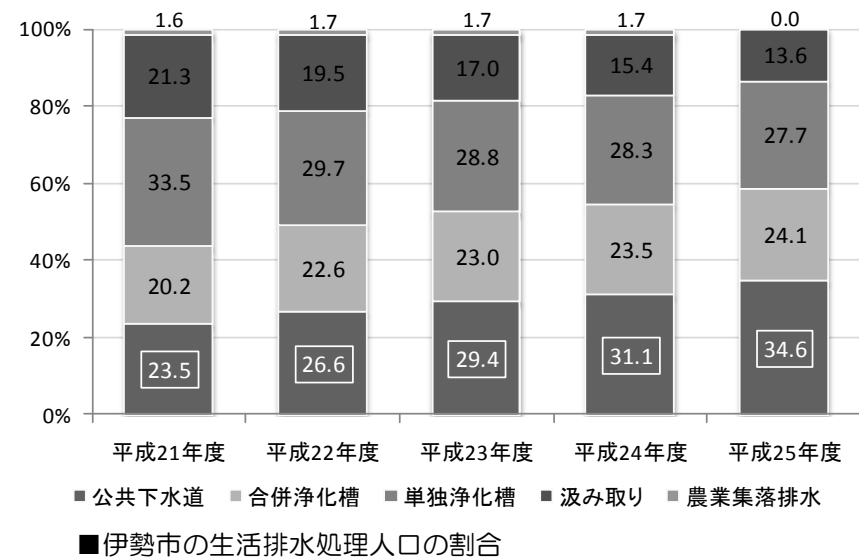


■伊勢広域環境組合の清掃工場へのごみ搬入量
 出典：市勢統計要覧（2013年度版）

【生活排水処理】

○伊勢市の生活排水処理人口の割合をみると、平成21年度は公共下水道が31,453人（23.5%）、合併浄化槽が27,043人（20.2%）、単独浄化槽が44,864人（33.5%）、汲み取りが28,487人（21.3%）、農業集落排水が2,202人（1.6%）であり、トイレの排水だけを処理し、生活雑排水を処理しない単独浄化槽の割合が最も高かった。

○平成25年度には、公共下水道が45,403人（34.6%）まで普及するとともに、合併浄化槽も31,603人（24.1%）まで増加し、単独浄化槽及び汲み取りからの移行が進んでいる。

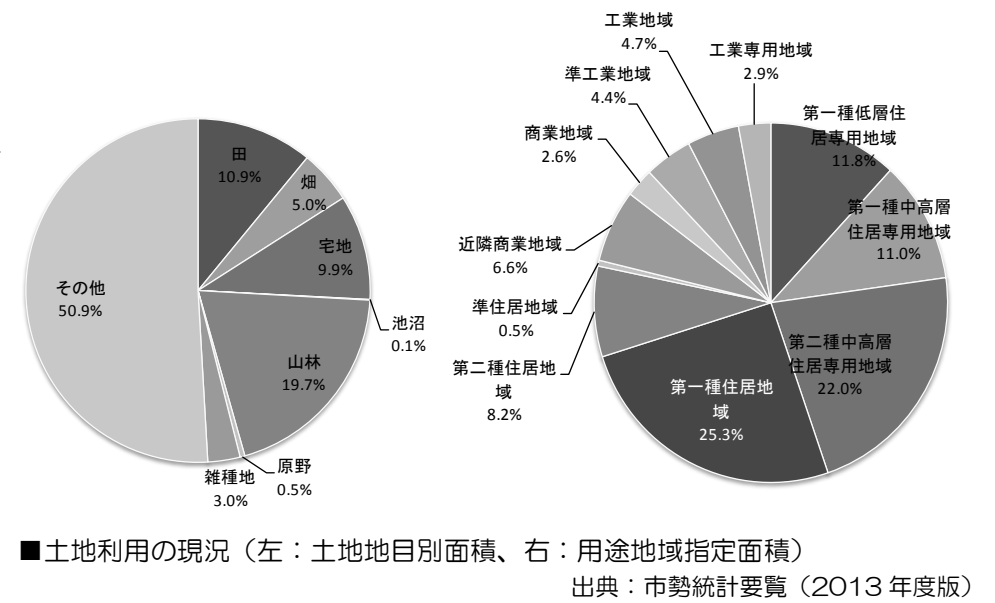


出典：環境課提供資料

4. 都市環境

【土地利用】

○本市の土地目別面積をみると、山林、田、宅地が多くを占めている。なお、その他には伊勢神宮及び神宮林が含まれている。
 ○都市計画用途地域の指定では、住居系の用途地域指定が最も多く、全体の約8割を占めている。



■土地利用の現況（左：土地目別面積、右：用途地域指定面積）
 出典：市勢統計要覧（2013年度版）

【公園・緑地】

○市内には、特殊公園・風致公園が1箇所7.78ha、運動公園が3箇所47.35ha、総合公園が4箇所79.08ha、地区公園が3箇所20.78ha、近隣公園が6箇所11.51ha、街区公園が208箇所19.95ha整備されており、市民1人あたりの公園面積は14.31m²/人となっている。

○人口1人あたり都市公園面積は、三重県で8.65m²/人、全国で9.20m²/人であり、県平均及び全国平均を上回っている。

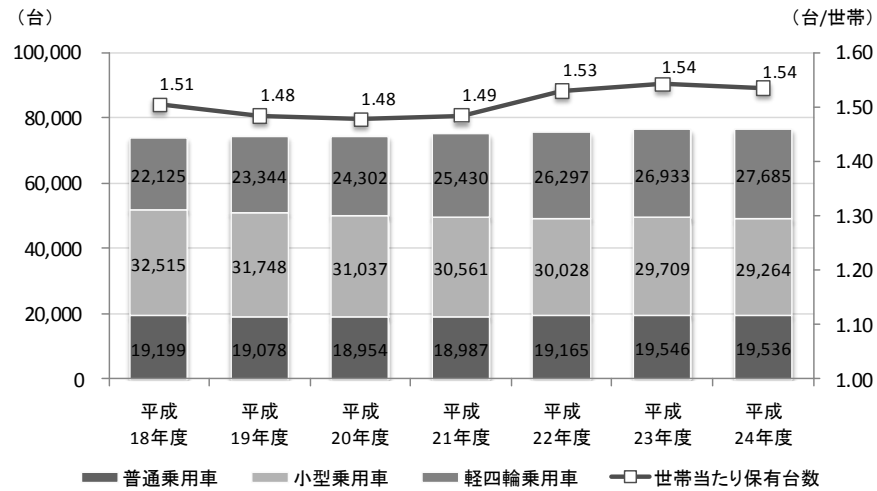
○また、まちなかでの緑化活動として、60を超える公共施設における夏季のグリーンカーテンの設置や、外宮前広場での「寄せ植え」コンテストの開催などが行われている。



■まちなかでの緑化活動
 （左：伊勢市役所本庁舎での緑のカーテン、右：外宮での「寄せ植え」コンテスト）
 出典：伊勢市ホームページ

【交通】

○本市の自動車保有台数は概ね横ばいである。内訳をみると、小型乗用車数は減少し、普通乗用車数が増加している。
○世帯当たり保有台数も概ね横ばいであり、平成 24 年は 1 世帯当たり 1.54 台で、全国平均よりも高く、三重県平均よりも低い値であった。



■自動車登録台数と世帯当たり保有台数の推移
出典：市勢統計要覧（2013 年度版）

	乗用車保有台数	世帯数	世帯当たり保有台数
伊勢市	76,485	49,809	1.54
三重県	1,320,117	704,607	1.87
全国	59,357,223	54,594,744	1.09

■世帯当たり保有台数の比較

【歴史・文化】

○伊勢市の文化財のうち、記念物（史跡・名勝・天然記念物）は 22 点指定・登録されており、二見浦や宮川堤のほか、松下社の大クス、宿り木の桜、弥栄の松などがある。
○伊勢市都市計画マスタープランにおいて、将来都市構造の軸の一つとして、外宮や内宮とともに発達した歴史的な文化・交流の骨格を現代に呼び戻し、周辺の拠点地区などと連携して伊勢市の歴史・文化とのふれあいを高める歴史文化交流軸が設定されている。伊勢湾・勢田川歴史文化交流軸では、河川敷を活用し、並木の植栽や花の栽培を行い、花と緑のある水辺空間づくりを進めており、その他にも、水辺に親しむフットパスの整備等のかわまちづくりにも取り組まれている。

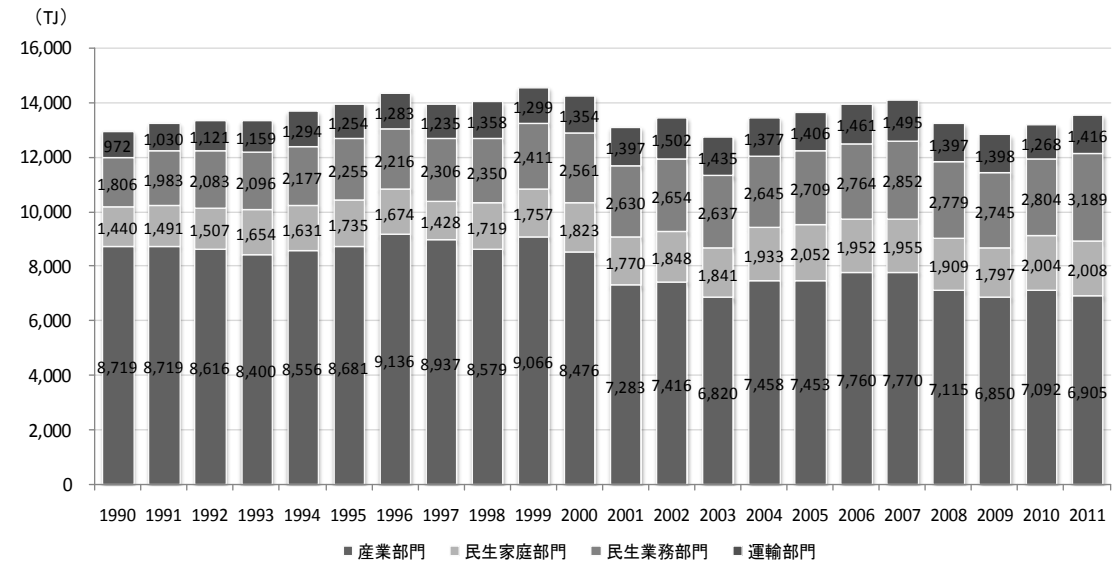
種別 区分	国宝		有形文化財								民俗文化財		記念物			計
	書籍	考古資料	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書籍	古文書	考古資料	歴史資料	有形	無形	史跡	名勝	天然記念物	
国指定	1	1	3	2	6	8	9	5	3	2		1	4	1		46
県指定			3	2	8	1	4	3	2		1	7		2	3	36
市指定			2	8	19	18	11	4	5	4	1	16	4		8	100
国選択												3				3
国登録			24													24
計	1	1	32	12	33	27	24	12	10	6	2	27	8	3	11	209

■伊勢市の指定文化財等件数一覧（平成 25 年 5 月 1 日現在）
出典：伊勢市ホームページ

5. 地球環境

【部門別エネルギー消費量】

○1990 年以降のエネルギー消費量をみると、全体では 1990 年から 1996 年にかけて増加し、1999 年の 14,534TJ をピークに、増減を繰り返しながら推移しており、2011 年には 13,518TJ となっている。
○2011 年の部門別のエネルギー消費量は、産業部門で 6,905TJ（1990 年比：20.8%減）、民生家庭部門で 2,008TJ（1990 年比：39.4%増）、民生業務部門で 3,189TJ（1990 年比：76.5%増）、運輸部門で 1,416TJ（1990 年比：45.7%増）となっており、民生業務部門及び運輸部門の増加が著しい。



※伊勢市の部門別エネルギー消費量は、経済産業省「都道府県別エネルギー消費統計」における三重県のデータを、同省「市町村別エネルギー消費統計作成のためのガイドライン」の考え方にに基づき、各種統計データを用いて推計したものである。
※TJ（テラジュール）はエネルギーの単位で、テラは 10 の 12 乗。

■部門別エネルギー消費量（推計）の推計

【新エネルギーの賦存量・期待可採量】

○本市では、太陽エネルギーや風力エネルギー、バイオマスエネルギーのうち木質バイオマス資源等に比較的大きなポテンシャルがある。こうした地域特性を踏まえ、太陽エネルギー（太陽光発電・太陽熱利用）、バイオマスエネルギー（生ごみの活用、廃食油の BDF 化）を積極的に推進するとともに、導入条件等を考慮しつつ、風力発電や木質バイオマス資源の活用を推進していくこととしている。

項目	賦存量 (10 ³ MJ)	期待可採量		カバー世帯数 (世帯)	
		電力利連 (MWh)	熱利連 (10 ³ MJ)		
太陽エネルギー	太陽光発電	148,989	—	25,866	
	太陽熱利連	—	290,391	10,521	
風力エネルギー	風力発電	1,184,026	—	205,560	
水力エネルギー	水力発電	359	—	62	
		—	—	—	
バイオマスエネルギー	生ゴミ等	(電力利連)	2,735	—	475
		(熱利連)	—	16,408	595
	木質バイオマス	—	29,786	1,079	
	バイオディーゼル燃料	—	3,341	121	
	家畜糞尿	(電力利連)	43	—	7
		(熱利連)	—	257	9
	資源作物	—	11,720	425	
	可燃ごみ	—	109,109	3,953	
	下水・屎尿汚泥	(電力利連)	502	—	87
		(熱利連)	—	3,015	109
合計	1,110,363,728	1,336,654	464,027		

■新エネルギーの賦存量・期待可採量の推計結果一覧
出典：伊勢市地域新エネルギービジョン（平成 20 年 2 月）